



館長だより

山形県産業科学館

令和6年4月20日(土)

発行 館長 加藤智一

「ナノテラス」本格運用開始(東北大学青葉山新キャンパス)

4月20日付けの朝日新聞によると、きわめて明るい放射光を使って物質の性質や機能を詳しく調べることができる施設「ナノテラス」の本格運用が始まるそうだ。仙台市が持っている利用権を使えば、一時間あたり3万9900円で利用できるとか。

そういえば似たような施設が兵庫県の播磨科学公園都市にもあり、平成9年より利用提供されており Spring-8 とよばれている。実は私、3,4年前に見学に行ったことがあります。自然に存在していた小山一つ丸々利用したような巨大な施設で、世界中から研究者が訪れておりました。山形県からも、鶴岡市の Spiber 株式会社が ブリュード・プロテインTM 繊維を開発したときに利用されたとか？

光学顕微鏡は、観察したい試料に光を当てて、像を拡大して観察しますが、電子顕微鏡は、光の代りに電子線を当てて像を拡大して観察します。ナノテラスで利用される放射光は、Spring-8 と同じ原理だとすれば、電子を光と同じ速度で加速し、磁石によって進行方向を曲げたときに発生する強力な電磁波ということになり、この光を利用した、「巨大な顕微鏡」といったところでしょうか。

あなただったらどんな研究に利用してみたいですか。例えば寒ざらしそばと普通の手打ちそばの違い(職員案)。こしのある「うどん」と、こしのない「うどん」の違い。海洋性プラスチックの表面に付着吸収される POPs や PFAS。ゼオライト触媒を使用した場合の高分子化合物の熱分解の様子。とかいかがでしょうか。

館長の読書

小川糸作品「ツバキ文具店」「キラキラ共和国」「椿ノ恋文」これら鎌倉を舞台にした連作を通して、私が感じた世界観をご紹介します。こうと思いません。タイトルは、

「キラキラ光る言葉の発見

鎌倉への誘い」

第三回 「キラリと光る言葉の数々」

さて、そんな思い入れのある鎌倉が舞台である糸さんの作品「ツバキ文具店」「キラキラ共和国」「椿ノ恋文」はツバキ文具店に住まいするポッポちゃんや代書屋を営みながら、出会った人々との絆やかかわりを鎌倉という土地が持つ歴史や風土、食べ物や人情を背景に綴られ、ほのぼのとしていて、時に笑えて、時に悲しく、私の心にすんなりと溶け込んでくる物語である。

普通の人々が何気なしに語る言葉は、決して説教くさくなく、学校の先生のありがたなお話のような上から視線でもなく、スーと私の中に入ってくる。ミッローさん(ポッポちゃんの旦那)が、ポッポちゃんをおんぶして壽福寺山門へと続く階段で言った言葉「誰かにおんぶしてもらったなら、今度は誰かをおんぶしてあげればいいんだ。」バーバラ婦人がしれっと言った言葉「男はあくまで嗜好品。必需品にしちゃダメ。」そして、「この世界つて

遊園地みたいなものかもしれないわね。」「ジェットコースターで恐怖を味わったり、メリーゴーランドでロマンスを知ったり。」

こんな言葉の数々、キラリと光る言葉の発明(想像!!)は、多くの本を読み、物語の世界に没入した経験ある者でなければ、思い付かない発想だと思える。

本を読むということは、たとえそれがどんな本でも、読む人の経験値を何倍にも膨らますことができる、魔法の言葉で溢れている。

今回はこれまで、第四回「匂い」乞うご期待。

